



## 多発性骨髄腫の治療 ～新規薬剤の登場で、治療も様々に～

徳島大学病院 血液内科長 安倍正博 あへまさひろ

■問い合わせ 内科外来受付 Tel.088-633-7118

「多発性骨髄腫」とは、高齢者に多く発症する血液細胞の腫瘍のことです。この腫瘍は、脊椎、肋骨、腸骨などの骨の中で広がり、骨髄内に腫瘍細胞が集積して、全身のあちこちの骨を溶かすという特徴があるため、骨痛や骨折で日常生活に支障が起きます。進行すれば「高カルシウム血症」や脊椎圧迫骨折による「脊髄麻痺」などが併発することもあります。

治療法として、患者さんの状態に応じて細胞の移植療法や化学療法が行われていますが、最近の新規薬剤の登場により、治療にも大きな変化と進歩が見られるようになりました。

### ■「骨破壊性病変」の治療薬:『ゾレドロン酸』

骨髄腫の症状の中で、最も生活に支障をきたすのが「骨破壊病変」です。化学療法により骨髄腫細胞が減っても骨病変は続くため、化学療法とは別に骨病変に対する対策が必要です。この治療薬の中心は、骨を溶かす細胞である“破骨細胞”を抑制する「ビスフォスフォネート製剤」です。『ゾレドロン酸』は、現在使用されている製剤の中で最も強力です。

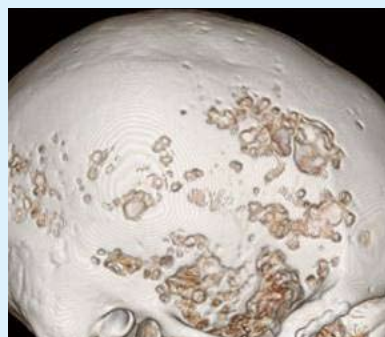
この製剤を使用すると、約半月ほどで骨痛の緩和が見られ、骨折の危険性も減ります。また、有効な治療法がなかった「高カルシウム血症」にもよく効きます。長期投与した場合、治療が困

難な「顎骨壊死」が起こることがあるので、その予防のため、投与前の口腔内チェックや歯科治療、投与開始後の抜歯処置などの回避、投与中の口腔内ケアに注意し、顎骨の疼痛などがあればすぐ歯科を受診し、投与継続の検討をして下さい。

### ■再発や難治性の多発性骨髄腫に:『ボルテゾミブ』『サリドマイド』

プロテアソーム阻害剤である『ボルテゾミブ』は、他の治療が無効である場合も、劇的な効果を出すことがあります。よく効果があった例に、溶けて失われていた骨の回復も見られました。これまでの治療では、腫瘍が縮小しても骨病変の改善は難しく、欠損した所に骨が再生することは困難だったため、とても画期的です。しかし、痺れや痛みが出やすく、まれに肺障害などの副作用があるため、慎重な投与が必要です。

また、最近日本でも『サリドマイド』が認可され、従来の化学療法と組み合わせることで治療効果が大きく伸びています。『サリドマイド』を改良した『レナリドミド』も近い将来治療薬として登場するでしょう。



▲治療前



▲治療後:『ボルテゾミブ』による骨病変の改善(頭蓋骨CT)。治療後頭蓋骨の骨欠損部に骨再生が見られている。